



# 和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 188号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報 2018年5月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)  
身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

## 2018年5月、6月の主な予定表

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)	樹林公園
5月	NPO 活動サポート事業 申請 (11日までに)	19日 定期保全	12日(土) 富沢湧水調査保全 9日 大坂ふれあいの森協力	ヒロハア マ ナ区保全
6月	3日 全国水環境調査	16日 定期保全	9日 富沢湧水保全体験 20日大坂ふれあいの森に協力	
7月	10日(予定) 白子宿歴 史勉強会	初旬七夕用竹切り出し 21日 定期保全	14日 富沢湧水保全と調査 18日 大坂ふれあいの森協力	

## 1. 2018年度(平成30年度) 第11回総会 4月28日開催されました



4月最後の土曜日、連休の初日28日湧き水の会総会を開催し多くの会員が一堂に会することが出来ました(出席 32名 委任状 16名)。和光市長松本様、和光市教育長戸部様はじめ環境課長亀井様、都市整備課主査本田様、横田様がご臨席ください、堀議長により爽やかに会が進行しました。事業報告では、高橋勝緒氏が画像を駆使して、会の活動の主なものを紹介し、活

動が大変解り易く報告されました。その中で特徴的なカタクリの群生地が漆台地区と白子地区の2か所が失われ、移植しなければならなかった事、和光にとって大きな変化が報告されました。事業計画では、今年度新たな事業として、埼玉県 NPO 活動促進助成事業の申請が承認されました。

皆様のおかげで滞りなく、和やかに進めることが出来ました。ご協力ありがとうございました。2018 年度もどうぞよろしく願いいたします。



## 2. 白子宿特別緑地保全地区の保全活動

3月2日には、富沢湧水の地権者である富沢院長をご案内して、石段を登り斜面林の状態、梅林などを見ていただきました。枯れた松の倒木の撤去を八廣園にお願いすることとし、地権者のご理解を得た活動を継続しています。

4月12日は、富沢湧水駐車場に2台のクレーン車が到着、斜面上部倒木の先端までクレーンを伸ばし、枯れた松の幹の伐採と吊り下げを繰り返し、撤去が完成しました。残った幹が倒れないよう三方向から綱で止めての作業でした。杉の倒木も撤去していただき森が明るくなりました。



### 3. カタクリの救出と移植・富澤尚氏邸裏斜面林の開発

白子地区のカタクリ自生地の中では最大で最高の環境を維持していた富澤氏裏斜面林が開発されることを尚氏から伺い、3月24日に新倉からも協力してもらい約20名の会員で、斜面のカタクリを掘り出しました。大きな花を咲かせている株もあり、深さ約30cmの球根およそ300株掘り出し、和光の緑地保全地域に移植を試みました。引き続き26日の午前にもできるだけの貴重植物を救出し、保護地域に植え込みを行いました。



氷河期からの生き残りと言われ、何千年もつないできたと思われるカタクリが、この地から失われることは悲しいことです。湧水も一つ消えてしまいます。このような経験から、やはり和光でのトラストを進めることの重要性を皆で実感しています。

富澤尚氏邸裏斜面林の様子



### 4. 新倉ふれあいの森で春の野草観察とタケノコ掘り体験 4月21日

毎年恒例の「自然観察とタケノコ掘り体験」の日が今年もやってきました。

竹林には年々少しずつ変化が表れています。3月末から竹の子が生えてきていました。年々早くなってきているようです。収穫量は、少なくなってきているようです。竹の子を掘り出した後には、ぬかななどの肥料をまくようにして、環境に配慮しています。

当日のコースは、赤池児童公園に集合し、越戸川沿いを歩き、川から新倉ふれあいの森を観察、その後新倉ふれあいの森の道路沿いをまわって入り口で、野草を観察します。ニンソウに加えて今年はカタクリの移植地を観察、急な階段を上り広場でタケノコ掘り体験を説明します。各家族ごとに会のメンバーがついて、子供たちから竹の子掘りを体験し大人は見守りです。土を掘りタケノコの根が見えるあたりまで掘って、最後にシャベルで掘り切ります。採れた竹の子を抱えて大喜びで、その瞬間の笑顔が素敵でした。

4月24日には、新倉にある保育園の園児たちが「竹の子掘り体験」に参加しました。この保育園の行事も恒例となっています。今年のタケノコ収穫の様子をお伝えします。

